

## 計画策定の目的

### 【現状】

- ・建設から30年以上経過し、大規模改修の時期
- ・入館者の減少傾向

「和紙の有効活用による町の活性化計画」策定  
(令和元年8月)

### 【再整備の方向性】

- ・和紙を中心とした観光施設としてのリニューアル
- ・道の駅としての設備機能の充実
- ・飲食施設の整備、充実及び事業者の誘致 など

## 現状分析等

- (1)商圏調査 ・ミニ観光商圏(車30分商圏)を意識
- (2)立地調査 ・道の駅を認識した車が立ち寄る率が高い
- (3)劣化診断 ・早めの大規模改修等が必要  
・改修だけでも約5～6億円の費用が発生
- (4)アンケート調査

- ・町民満足度が全体的に低く、物販及び飲食部門の改善優先度は高い
- ・充実させてほしい機能は、「無料の休憩スペース」や「町民や観光客が活用、交流するスペース」
- ・直売所で求める意見は、「野菜・果物の新鮮さ」、「取扱い品目の豊富さ」、「地域ならではの商品」
- ・飲食で求める意見は、「ここでしか味わえないオリジナルメニュー」
- ・伝統工芸会館は、利用者満足度が低いため改善が必要

- (5)需要予測 ・再整備により年間約3.8～4.5億円の売上げ  
・現況施設と比べ約2.3～2.9倍の増加  
・総年間利用者数は約56.7万人～69万人

## 再整備の手法

### (1)再整備のコンセプト

手漉き和紙と有機の里 道の駅おがわまち

### (2)再整備の内容

- ・和紙を中心とした観光施設として再整備  
展示、物販、体験メニューの充実等
- ・道の駅としての設備機能の充実  
トイレの改善、遊具の整備、防災機能強化等
- ・飲食施設等の整備、充実  
飲食施設、物販施設の充実等

### (3)再整備の手法

- ・複数の民間事業者等から整備内容、整備費用、管理運営費用等の提案を受け、最良の運営事業者を選定
- ・国等の補助金を最大限活用し、町の支出を圧縮する。

### (4)スケジュール

令和4年度 運営事業者の選定、実施設計  
令和5年度～令和6年中 工事  
令和6年12月 運営開始

## 再整備後の展開

### (1)観光の拠点としての役割の強化

- ・見晴らしの丘公園、槻川、分校カフェMOZART等、周辺観光スポットへの誘導

### (2)地域振興の拠点としての役割の強化

- ・各種団体や地域住民等との連携や協議による事業展開、町民の利用促進